

令和6年度第6回伊勢市子ども・子育て会議 議事録

日 時	令和7年3月13日(木) 15:30～17:00
場 所	伊勢市役所本庁舎東館5階 5-3、5-4会議室
出席委員	中條委員、秋山委員、花田委員、中北委員、濱口委員、前島委員、竹内委員、山本委員、伊藤委員、案浦委員、三宅委員、前田委員、大井戸委員
事 務 局	〔健康福祉部〕 次長、子育て応援課長、同子育て応援係長、同こども育成係長、同主事2名、保育課長、同保育係長、同施設運営係長、福祉総合支援センター長、同包括ケア推進係長、健康課長、同母子保健係長、生活支援課長、こども発達支援室長 〔教育委員会事務局〕 教育総務課長、学校教育課副参事、社会教育課長、教育研究所長
傍 聴 者	0名
資 料	資料1-1 利用定員を変更する特定教育・保育施設 ～資料1-2-4 資料2 令和6年度就学前子どもの教育・保育についての取組状況について

議 題

- (1) (特定)教育・保育施設の利用定員・確保方策について
- (2) 就学前の子どもの教育・保育についての令和6年度の取り組み状況について
- (3) その他

・事務局より会議公開の説明、資料確認、会議成立の報告

【事務局より】

議題(1)について説明(資料1-1～資料1-2-4)

(「●」は委員意見、「(委)」は意見に関する委員の意見、「→」は事務局回答を表す)

●伊勢市のこどもの人口は減っている。それでも市の中心部にある保育所等には一定数のこどもが入園すると思うが、沿岸部や山側に位置する保育所等はこどもの確保ができず、施設の運営が難しくなり、施設数が減る可能性がある。しかし、少ないかもしれないがニーズはあるので、市はそういった施設を大事にしてほしい。

(委)今回策定したこども計画に含んでいる施設整備計画をもとに、それぞれのニーズなどを勘案しながら取り組んでいきたい。また、市外に住むこどもが事情により市内の保育所等への通所を希望する際の広域的な利用調整という制度があり、改めて市内の全保育所等と近隣市町に案内した。今後も様々な視点から対応していきたい。

●就学前から就学後にかけて児童数が増加している。家庭の事情で保育園等に通えなかったり通っていないこどもがいると思うが、その人数を市は把握しているか。

→具体的な数字は今持ち合わせていないが、0歳から年齢が上がるにつれ保育所等の利用率は増加し、4, 5歳になると約98%の児童が利用しているが、保育所等を利用しないまま義務教育を迎えるこどもも数%いる。

→福祉総合支援センターこども家庭相談係では、未就園のこどもの情報把握に努めるとともに、対象の家庭にアプローチして状況確認を行っている。

●私立のように公立の保育所等も園の特色を出すことで、入所を希望する家庭が増えるのでは。

→施設整備計画において、基本的にこどもは私立の保育所等で受け入れてもらい、公立の保育所等では特別な支援が必要なこどもの受け入れに特化する方針である。

(委)さまざまなニーズや待機児童を出さないことを念頭に、市全体で必要な保育と教育を提供していきたい。

【事務局より】

議題(2)について説明(資料2)

- 5歳児発達支援事業の実施状況において、対象のこどもの5.1%に発達の課題が発見されたということだが、それはADHDなどの診断が付いてないこどもか。

(委)はい、そのとおり。今まで療育施設や病院に行ったことがなく、この事業で初めて課題が発見されたこどもである。なお、5歳児の時点で既に療育など支援を受けているこどもは、13.6%にあたる。

- こども発達支援室が行う幼稚園等への巡回相談は、指導員がさまざまな事例を教えてくれるので助かっている。「CLMと個別の指導計画」も職員の負担軽減に配慮して進めていただいている。人員確保が大変と思われるが、特別支援を必要とするこどもが増えているため、巡回相談の頻度を増やして欲しい。

→令和7年度は人員を増やし、より多くの現場へ出向けるように努めたい。

- 小学校1年生の担任の負担が大きいと聞いた。グレーゾーンの児童の対応や、診断がついていない児童には支援員がつかないといった状況があると思われるので、保育所等と小学校の連携を深められると良い。

→こども発達支援室では、こどもの特性や有効的な関わり方についてまとめた冊子を学校に配布している。環境が変わると戸惑うこどももいるので、こどもの特性や支援等を小学校へ引き継ぐ移行支援を行い、入学後も様子を見て、学校や教育委員会と協力しながら対応している。

→こども発達支援室の移行支援により、毎年1月に、来年度入学する児童の情報共有をしてもらうことで、学校の体制づくりができているほか、教育委員会もその情報をもとに支援員の加配などを検討し、こどもが安心して学びをスタートできるよう準備を進めている。

(委)小学校から保育所等に出向いてお子さんの様子を見ることもあるが、すべてを把握できるわけではないので、この情報提供が次年度の校内体制を整える際に役に立っている。また、特別支援学校の先生に来ていただくときもあり、支援の方法が適切かなど専門性のあるアドバイスをいただける。小学校としても、こういった支援がさらに充実していくとありがたい。

(委)海外では、学童の支援員が午前中に小学校の支援員をする取組がある。専門的でなくてもこどもに寄り添う人がいると先生の負担が軽くなると思う。国からの補助はないか。

→市としても、県から国に要望していただくようお願いしている。市で配置している学習支援員については、昨年度は7時間勤務の方が65名だったが、今年度はさらに4時間勤務の方24名を増員し、児童を支援している。

【事務局より】

議題(3)について説明、次回の開催予定等

- 保育所等の園医について、公立施設は医師会から推薦しているが、私立施設からも推薦依頼があった。ただ、私立施設では報酬が統一されておらず、一部の私立施設では非常に低い金額で依頼されている。医師会からの推薦を希望されるのであれば、統一をお願いしたい。

→経緯等を確認し、今後についてご相談させていただきたい。

- 次の任期の委員構成に「若者」とあるが、事務局は委員候補者の目星がついているのか。年齢以外の要件はあるのか。

→こども計画を策定し、今後、若者の支援を審議するための委員として新たに設定した。

(委)募集方法などはまだ具体的に決まっていないので、これから決めていきたい。